

研究室紹介

工芸科は彫金、鍛金、鋳金、漆芸、陶芸、染織の6分野に、2022年度学部カリキュラムより併設された素材造形(木材・ガラス)を加えた7分野14研究室を有しています。

大学院(修士・博士課程)においては、専門分野を主軸とした教員それぞれのテーマやキーワードを強みとする研究室に所属し、指導教員と学生が面談をして学生自身の研究テーマを確定します。各研究室の技術力・発想力・行動力などの特性を生かした指導のもと、各々に必要な専門分野の研究を深めていきます。学部で得た技術・知識をさらに推し進めた専門性に特化する研究が可能であるとともに、世界各地にある国際連携校を含めた国際交流を積極的に行う研究室、社会連携や国内外のプロジェクトに参加する研究室など、国内外へ広く発信を行いつつ、学生の視野を広げる取り組みも行っています。

独創性・独自性を持ち合わせた教員による専門性のある研究室と多様な専門分野の設備を有している本学ならではの研究や経験を積むことのできる環境が整っています。



教授
前田 宏智

MAEDA Hirotomi

専門分野：彫金
テーマ：素材と手法の展開
キーワード：金属素材の面白さ
行為と表現



comment

金属は元来鉱物として存在し、様々な性質、個性を持っています。有史前から作り手は対話を繰り返し、魅力を引き出し、試行錯誤を重ねてモノを生み出してきました。そのような観点から、彫金を中心とした様々な素材や技法、道具などをあらためて受け取り、現代に求められる表現のために作る力を広げたいと思います。



准教授
岩田 広己

IWATA Hiroki

専門分野：彫金
テーマ：複合装飾
ジュエリー
キーワード：純粋と応用
身体と造形
感覚と思考



comment

金属に装飾を施す彫金という造形行為をもとに、素材や技術は元より、思考を軸とした表現や対象とする事柄の本質を考え、様々な要素が重なり合う複合的な視点や手法で、人から空間に至る様々な場面における造形やジュエリー表現の可能性を求め研究を行っています。



教授
丸山 智巳

MARUYAMA Tomomi

専門分野：鍛金
テーマ：金属造形表現
キーワード：伝統技法と現代



comment

鍛金の伝統技法と現代の機器を用いて、より自由な造形表現の可能性を研究し、鍛金の要である道具造りから金工技法を学ぶことにより本質的な造形力を養う授業展開をしています。社会との連携においてもワークショップ等を介して金属造形の楽しさを提供しています。



教授
赤沼 潔

AKANUMA Kiyoshi

専門分野：鋳金
テーマ：鋳造プロジェクト
楽しいですよ！
キーワード：鋳金からの造形



comment

様々な素材で制作した原型を金属に置き換え仕上げる鋳造技法と日本有数の鋳造設備を駆使し、個人作品のみではなく、芸術祭や東京2020復興のモニュメントなどのプロジェクトに参加しています。教育と社会との繋がりという大学の強みを生かし、社会と連携し発信することを目指しています。



准教授
志村 和彦

SHIMURA Kazuhiko

専門分野：鍛金
テーマ：金属造形
キーワード：鍛造表現



comment

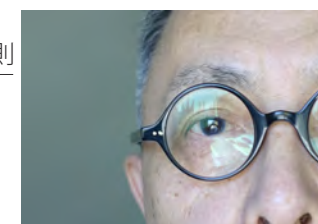
素材の特性を理解しつつ表現していくことで気づく自己の世界観や、伝統技法を基盤として新たな表現の可能性を探ることが大事だと考えます。素材、技法、自己の世界観のそれぞれを対話させながら、主に鉄を素材として鍛造技法による作品を展開しながら、金属造形表現の可能性を追求しています。



教授
谷岡 靖則

TANIOKA Yasunori

専門分野：鋳金
テーマ：消失原型による
細密鋳造表現
キーワード：細密表現
消失原型
ロストワックス鋳造



comment

ロストワックス鋳造法は紀元前から現代に至るまで使われている技法であり、世界各国どの地方でも実践されています。その技法は様々であり、鋳型にはその地方の特色も見られます。本研究室では美術鋳造の基本であるロストワックス鋳造法を多岐に亘る視点から紐解き、現代に於けるより細密な鋳造表現の可能性を探りながら新しい表現は何かを研究しています。



教授
小椋 範彦

OGURA Norihiko

専門分野： 漆芸
テーマ： 漆芸技法の応用
キーワード： 蒔絵
螺鈿
乾漆
伝統技法



comment

金属粉や貝を用いた伝統的な装飾技法(蒔絵や螺鈿)と造形表現(木胎・乾漆)に現代的な感覚を取り入れた漆芸技法の追求をしています。学生と共に漆芸技術のあるアジア圏を中心に交流を積極的に行い、研究成果を国際社会へ発信しています。



教授
三上 亮

MIKAMI Ryo

専門分野： 陶芸
テーマ： 焼成による素材変化
キーワード： 窯構造・築窯
土
技術・技法
陶の可能性



comment

窯構造、焼成方法、築窯を通して陶芸の視座を養い、土・素材自体を問い、新たな解釈、造形の可能性を追求します。



准教授
青木 宏 憧

AOKI Kodo

専門分野： 漆芸
テーマ： 乾漆造形
キーワード： 乾漆
塗料表現
漆液精製
装飾造形



comment

漆は植物の樹液です。縄文時代から日本で使われてきた造形素材で接着剤、塗料の2つの役割があります。形を造るところから画材まで一貫して漆が主軸になり造形が可能です。制作にはとても時間を費やしますが、完成した時の輝きは他の材料では表現出来ない美しさがあります。



准教授
椎名 勇

SHIINA Isamu

専門分野： 陶芸
テーマ： 陶磁造形
キーワード： 素材探求
質感
器
表現



comment

陶磁造形素材の研究を進め、用途と美術表現の両視点から色彩・形態・質感との関係性を探求し、陶磁造形と物・人・空間・社会との関連性を追求しています。



准教授
橋本 圭也

HASHIMOTO Keiya

専門分野： 染織
テーマ： 繊維造形
キーワード： 繊維造形・織・染



comment

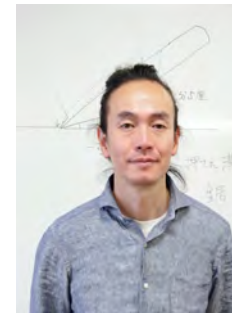
織・染・繊維造形の幅広い研究制作と教育の経験を活かし、繊維素材を用いた造形表現・活動をサポートします。指導教員は学生と対等な関係で、個々の研究概要に沿って大学院修了後の活動を見据えた独自性の高い研究活動を探求します。研究室と修了生は、将来も協働出来る存在になることを目指しています。



講師
菌部 秀徳

SONOBE Hidenori

専門分野： 素材造形(木材)
テーマ： 木工の技法と材料
木材の造形
キーワード： 木工とかたち
手仕事と木工具
木工における構造
リレーション



comment

本研究室では木工技法材料研究と木材造形研究を主旨としています。この過程を通じて、一人一人が独自の素材観を培い技法の修練をしながらその制御を身につけます。また制作した作品や研究がその本質を衝くものであるか、教員学生共に批評性を持ちながら対話をしてゆきたい。それらを踏まえて創作のベースとなる豊かな感性や自立した理念を養い現代社会における有効な作品のあり方を探求し、そして人々との多様な良い関係性(Relationship)を築くものを見つけたいと思っています。



准教授
山田 菜々子

YAMADA Nanako

専門分野： 染織
テーマ： 伝統染色技法の展開
キーワード： 糊防染
着色防染
型染
友禅染



comment

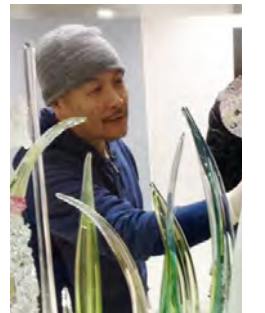
伝統染色技法である、友禅染・型染に着目し、糊による着色防染技法を使って独自の表現に展開し、新しい染表現を探索しています。また、それら伝統技術の記録・保存への取り組みも重要視し、その上で「染める」ことだけではなくテキスタイル全般の可能性や多様性に目を向け、柔軟な視点・思考に重きを置いた指導を目指します。



教授
藤原 信幸

FUJIWARA Nobuyuki

専門分野： 素材造形(ガラス)
テーマ： ガラス素材を用いた
作品表現
キーワード： 現在のガラス造形
技法研究
造形の社会実践



comment

伝統的な技法の習得を通して、個人の自己表現に留まらずに工芸、美術、芸術の社会に対する実践を学ぶ力をつけていきます。また、個人の制作と共に、研究室活動やプロジェクトに参加したりしながら経験を積んでいきます。留学生も多く、海外との交流も盛んに行っています。

